

Bunkyo Garden

投稿欄

皆様の投稿をお待ちしています。
emi-watanabe@adm.u-bunkyo.ac.jp

野菜代行販売で深めた「信頼」と「絆」

コミュニケーション
社会学科2年

飯野 幸子

11月3日上福岡中央公園で行われた産業祭で、私たちは福岡県郡山市逢瀬町の野菜を代行販売しました。この活動は、環境教育

研究センター（中山智晴センター長／人間学部教授）の「グリーンツーリズム」という活動でお世話になっている逢瀬の方々、3月11日の東日本大震災で起こった原発事故による風評被害で、野菜が売れなくて困っているということを聞いて、この取り組みを始めました。逢瀬の野菜の放射線量は



上福岡中央公園で野菜を販売 前列左から2人目が飯野さん、同右から2人目は中山教授

郡山市の中では低いのですが、郡山市として基準値よりも高い数値になっているため、野菜が販売できない期間がありました。さらに

出荷制限が解けても、「島の野菜だから」と買ってくれる人が激減しました。そこで、学生と先生で話し合い、私たちは「今までの恩返しを

したい」と、逢瀬の野菜を埼玉で代行販売することを決めました。4年生の高橋孟子さん、山本実冬さん、3年生の星野麗音さん、そして私が逢瀬の野菜代行販売の学生代表として、これまで産業祭の他、上福岡商店街（チャレンジショップ）、大学祭、環境フェアでの販売などお祭りやイベントなどで代行販売してきました。大学祭では、初めて野菜販売の全体代表をやらせていただきましたが、先輩たちより欠けている事がたくさんあることがわかり、まだまだ自分一人ではできないのだと痛感しました。販売を通してB・I・C・S（地域連携センター）の学生実行委員長である斉藤千尋（人間福祉学科3年）さんと知り合い、これからも協力してくれることになり、新しい繋がりができました。

代行販売を通してより逢瀬の方々や学生が関わり、信頼や絆が一層深まった気がします。お世話になっている地域の方々や、大学のOB・OGの先輩方も協力してくださいました。

これからも環境教育研究センターと逢瀬の交流を大切に、先輩が先輩へと繋ぎ、出会いが繰り返されていく、そんな繋がりをしていきたいです。